

第2章 介護助手をめざすみなさんへ

「資格は持っていないけれど、介護の仕事に興味がある」というみなさん。

「介護助手」として一緒に働きませんか。

施設によっては「介護助手」ではなく、「介護補助」や「介護サポーター」という名称で呼ばれているかもしれません。いずれも介護士の補佐的な業務に携わり、何歳からでも始められるお仕事で、特別な資格を持たずに介護の仕事に従事できることが特徴です。

この手引き書は、介護の仕事に興味関心はあるけれど、適性や体力に不安があったり、資格取得の勉強の必要を考え、二の足を踏んでしまっている方に「介護助手」とは何かを知っていただき、「介護助手」を目指していただくことを目的としています。

2-1 介護の仕事とは

最初に、介護の仕事に携わるにあたって、介護業界を知っていただくため、サービスの種類や関連施設、職種についてご紹介します。

2-1-1 介護サービスの種類

介護サービスには、介護士が利用者のご自宅に訪問して行うものや、利用者ご自身に通所してもらい提供するものなど、さまざまな形態があります。

下に、代表的な介護サービスの種類と内容をご紹介します。

表：代表的なサービス

分類	施設・サービス名称	内容
入所サービス	介護老人保健施設（老健）	ケガや病気等で入院していた人が退院後、自宅での生活に戻るため、医師の医学的管理の下、リハビリや医療・介護から食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設です。
	介護老人福祉施設	寝たきりの状態など、家庭での介護が難しく、24時間介護を必要とする人が生活する場です。
	介護療養型医療施設	慢性疾患があり、長期療養が必要な人のために、介護サービスを手厚くした医療機関です。
	介護医療院	医療の必要な要介護者の長期療養・生活施設です。
通所サービス	通所リハビリテーション（デイケア）	老健などに通って利用します。理学療法士・作業療法士などの専門家と一緒に、身体機能の維持回復、日常生活の自立を助けるためにリハビリを行います。
	短期入所療養介護（ショートステイ）	短期間、老健などに入所し、身体機能の訓練や日常生活の補助をします。
	通所介護（デイサービス）	デイサービスセンターなどに通い、食事や入浴など日常生活の支援を行います。
訪問サービス	訪問介護	ヘルパーが自宅を訪問し、日常生活介助を行います。
	訪問看護	医師の指示のもと看護師が自宅を訪問し、健康チェックや診療の補助をします。
	訪問リハビリテーション	医師の指示のもと理学療法士などが自宅を訪問し、身体機能の維持回復、日常生活の自立を助けるためにリハビリを行います。

2-1-2 代表的な介護施設

介護サービスには、入所施設で介護を行うものもあります。

ここでは、代表的な介護施設として、介護老人保健施設と介護老人福祉施設をご紹介します。

介護老人保健施設（老健）とは

■ 概要

入院していた人が退院後、家庭への復帰にむけて介護や医療が必要な方を対象に、介護・リハビリテーションや食事・入浴等の日常サービスを提供する施設です。

■ 対象者

入院治療をする必要はないが、リハビリテーションや看護・介護を必要とする方が対象です。

（要介護1以上の認定を受けた方。）

■ サービスの内容

- ・理学療法士・作業療法士等によるリハビリテーション
- ・医療ケア・看護（診察、投薬、検査など）
- ・日常生活上の介護（食事、入浴、排せつなど）
- ・その他（相談援助、レクリエーションなど）



介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）とは

■ 概要

常時介護を必要とし、在宅での生活が困難な高齢者に対して、生活全般の介護を提供する施設です。

■ 対象者

常時介護が必要で、在宅生活が困難な方が対象です。

（要介護3以上の認定を受けた方。）

（要介護1・2の方についてもやむを得ない事情により、居宅での生活が困難であると認められる場合には、市町村の適切な関与の下、特例的に入所することが可能です。）

■ サービスの内容

- ・日常生活上の介護（食事、入浴、排せつなど）
- ・機能訓練（リハビリテーションなど）
- ・日常の健康管理（バイタルチェックなど）
- ・その他（生活相談、レクリエーションなど）



2-1-3 介護施設で働くさまざまな職種

介護サービスや介護施設にさまざまな種類があるように、施設で働く人たちの職種もたくさんあります。

まずは、介護職の概要についてご説明します。

介護職とは

■ 概要

高齢者の暮らしに寄り添いながら、日々の生活に必要なサービスを提供する専門職です。

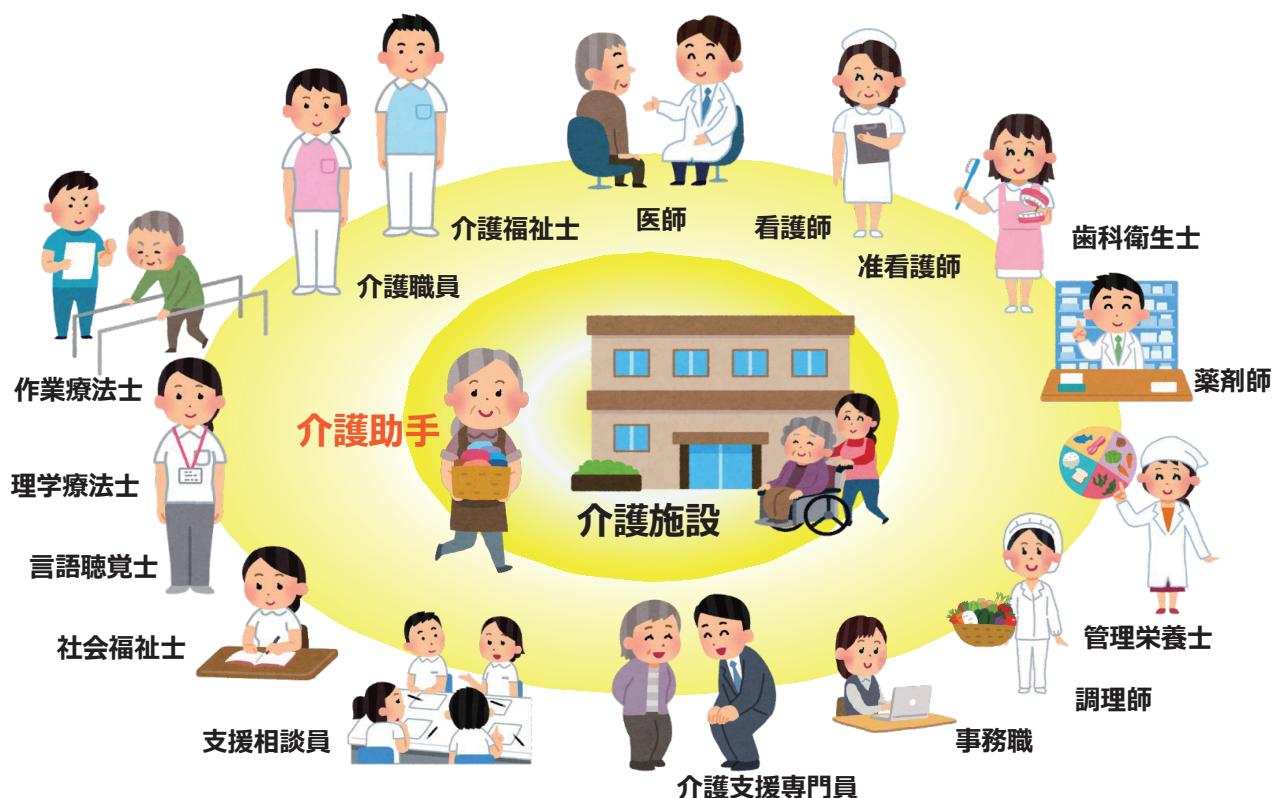
■ どのような仕事か

高齢者の日々の暮らしを支える仕事です。

食事・入浴・トイレなどの介助をする中で、専門的な知識や技術はもちろん、仕事に対する創造力や人間力が問われます。

■ どのような職種があるか

代表的な職種には、以下のようなものがあります。



表：介護施設で働くさまざまな職種

職種	職務内容
介護福祉士 介護職員	利用者の介助や身の回りのお世話をし、利用者が快適に自分らしい日常生活を送れるよう支援します。
医師	医師にしかできない診断や治療、利用者の状態像を把握した上で看護職やリハ専門職への指示を行います。
看護師・准看護師	医師と協力して利用者の医学的管理を行うとともに、医学的知識を活かして適切なケアを行います。
理学療法士 (PT)	利用者に対する評価とリハ計画の作成、専門的リハの提供等を行います。 理学療法士 PT は主に運動機能を、作業療法士 OT は主に応用動作能力・社会的適応能力を、言語聴覚士 ST は主に発語や嚥下機能を、維持・向上させるためのプログラムを実施します。
作業療法士 (OT)	
言語聴覚士 (ST)	
管理栄養士・栄養士	利用者の栄養状態の維持・向上のために、状態像に合わせた食形態の設定などを行います。
薬剤師	調剤・服薬管理の指導を行います。
歯科衛生士	口腔ケア、介護職員への口腔ケア指導等を行います。
介護支援専門員 (ケアマネジャー)	要介護者や要支援者、家族などの相談を受け、要介護者等が状態に応じた介護サービスを受けられるよう支援します。
支援相談員 (介護老人保健施設) 生活相談員 (介護老人福祉施設)	ケアプランの作成や、施設の職員、医師、理学療法士、自治体職員などの連絡・調整も担当します。
その他	社会福祉士、事務職員、調理師など

ここで挙げている職種とスタッフは、ほんの一例です。

さまざまな専門知識や技術を持ったスタッフが、チームで介護の仕事に携わり、利用者の生活を支えています。

2-2 介護助手の仕事について

2-2-1 介護助手の概要

では、介護職の中で「介護助手」はどういった役割で、どういったメリットや特徴があるのでしょうか。



介護保険施設や事業所などにおいて、介護職員をサポートする仕事です。介護の仕事は、食事介助や自立支援など多岐にわたりますが、利用者に対する「トイレ介助」や「入浴介助」といった直接介護は行わず、それ以外の周辺業務を主にを行います。



①「介護人材の確保」

介護の担い手の増加と介護職の専門職化が図れます。

②「地域貢献」

住み慣れた地域で働いてもらうことにより、地域との交流の促進になります。

高齢者が
介護助手として就労
するメリットとは？



①「就労の機会の創出」

意欲があっても就労の機会がない方にとっての就労の場所となります。

②「健康づくり」

就労することにより、身体機能の維持や認知症の予防にプラスになるという研究結果があり、健康維持につながります。

③「生きがいづくり」

介護職に就労することで生きがいを感じられます。

高齢者が介護助手
として活躍できそうな
場面とは？



①「レクリエーション・コミュニケーション」

レクリエーションなどにおいて、「利用者と同年代の方」が企画した催しは、入居者の方に好評なケースが多々みられます。育った社会背景や考え方の理解に優れているためでしょう。

カラオケや習字、ちぎり絵など、得意なことや趣味について教えあったり、会話がはずむことも想定されます。

②「清掃・片付け」

また、居室清掃等の際、若い職員が気づかない部分もしっかりきれいにするなど、仕事が非常に丁寧で、職員側が教えを受けたり、気づきを得る場面もたくさんあります。

2-3 業務の概要について

2-3-1 介護職員の業務と介護助手の業務の相違点

これまで、介護の仕事や介護助手の仕事について簡単に説明してきました。では、介護職員と介護助手の違いとは何でしょうか。

介護職員と介護助手の一番の違いは、直接介護をするか・しないかという点です。

介護業務（直接的な身体介護）は介護職員の仕事であり、介護助手の方には身体介護に付随する業務や周辺業務を実施してもらいます。介護助手は「介護をする職員の手助けをする」仕事と考えてください。

例として食事場面を取り上げてみます。

介護職員が嚥下困難な利用者に、スプーンでご飯を直接口に運んでいる場面を想像してみてください。そういった1対1の状況では、ほかの利用者の様子を注意深く見守ることはできません。

こんな時、介護助手が、ほかの利用者の様子に気を配ったり、お茶を配ってあげたりと、きめ細やかなフォローを行うことで、介護のサービスが十分に行き届くことができるというわけです。

表：介護職員と介護助手の業務の相違（食事場面での一例）

【介護職員】 (直接介護)	【介護助手】 (周辺業務)
食事介助 食事見守り 摂取量の確認 服薬介助 下膳 利用者誘導 口腔ケア	エプロン・おしぼり配り お茶づくり・配茶 配膳 自助具配り 食事見守り 食堂片付け エレベーター移動の声掛け



主な周辺業務について

食事の場面以外でも、施設内での介護に付随する業務や周辺業務は多岐にわたり、具体的には、下記のような業務が挙げられます。

■ 施設の清掃・維持管理

- ・ 部屋の掃除や食事の片付け
- ・ ベッドメイキング、シーツ交換
- ・ 換気や加湿など環境整備
- ・ 備品の補充や交換



■ 各準備の補助

- ・ 食事の配膳
- ・ 自助具やリハビリ用具の準備や片付け
- ・ 移動時の声掛け



■ その他

- ・ 見守り
- ・ お話相手
- ・ 施設とご自宅間の送迎
- ・ 園芸などの趣味活動のお手伝い

など

これらの仕事を
すべて担ってもらうわけ
ではありません

自分で出来そうな業務を
見つけてください



2-4 実業務の内容について

2-4-1 介護助手の具体的な業務

前ページまでで、介護助手が行う業務（周辺業務）についてご紹介してきました。これからは、みなさんが介護助手として施設で働くことになった際、「実際にお願いされることになる業務」を、より具体的にみていきます。

介護助手の仕事は難易度によって分類され、その難易度の分類を、この手引き書では「クラス」と呼びます。「クラス」は介護に関する知識がなくても行える業務から、一定程度の専門知識が必要になる業務までを、C～Aの3段階に分けています。

介護助手が行う周辺業務のクラスについて

■ Cクラス

マニュアル化・パターン化が容易で、専門的知識・技術がほとんどない方でも行える業務で、具体的には、清掃、片付け、備品の準備、等があげられます。

■ Bクラス

短期間の研修で習得可能な専門的知識・技術が必要となる業務で、具体的には、日常生活動作に応じたベッドメイキング、利用者の状態に応じた配膳時の注意、等があげられます。

■ Aクラス

一定程度の専門的知識・技術・経験を要する比較的高度な業務です。
(利用者の見守り・話し相手・趣味活動のお手伝い 等)

業務内容やクラスについては、この手引き書で紹介したものと実際に就労する施設では、異なることもあります。

それは、周辺業務の内容は、施設によって異なるためです。また、同じ業務内容でも、利用者によって対応が変わることがあるので、クラス分けの内容はあくまで参考としてください。

業務の詳細は、就業する施設の担当者からの指導や、研修などで知ることができまので、確認してください。

では、次に、各クラスの業務内容についてみていきます。

クラス別の周辺業務について

■ Cクラス

「Cクラス」は、マニュアル化・パターン化が容易で、専門的知識・技術がほとんどない方でも行える業務です。はじめて介護の仕事に携わる方や、まずは施設の基本的な仕事を知ることから始めたいという方はこのクラスからのスタートになります。

表：Cクラスの業務内容

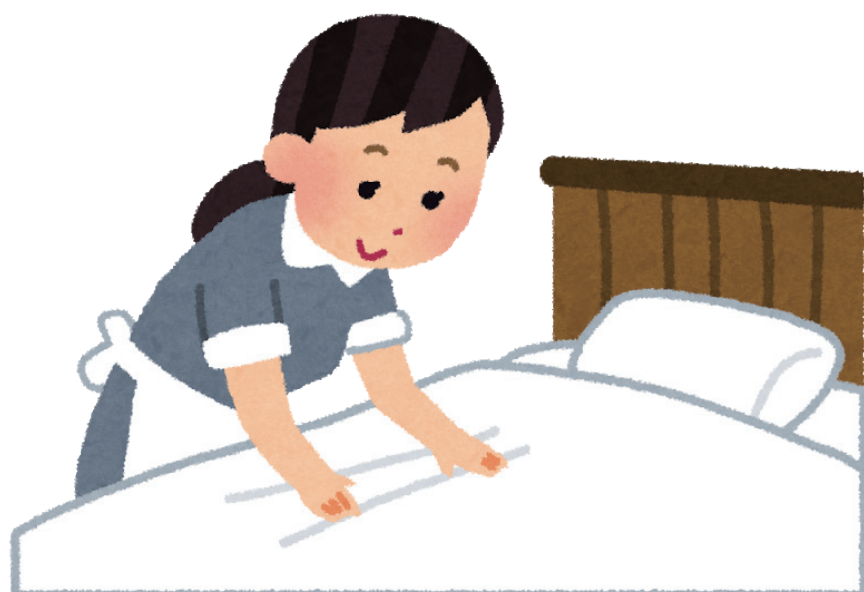
分類 (大項目)	分類 (中項目)	業務内容 (小項目)
起床	起床準備	カーテン開けやフロア換気などの環境整備等
食事	食事準備・片付け	机上清掃
		エプロン・おしぼり配布
		自助具等清掃、食器等洗い
		食堂清掃(テーブル・床掃除)
清掃	居室・共有部清掃	施設内の換気・加湿器の手入れ
		床掃除・手すり拭き
		トイレ清掃
		シーツ交換
		ベッドメイキング
		ゴミ捨て
		物品補充
洗濯	洗濯・洗濯物片付け	洗濯
		洗濯物たたみ・返却
		おしぼりづくり
入浴	入浴準備・片付け	湯はり
		入浴衣類準備
		浴室清掃
		物品補充
維持管理	施設の維持管理	車両清掃
		植栽管理(水やり)
		備品チェック・補充・交換
リハビリテーション	リハビリテーション	物品片付け
レクリエーション	レクリエーションの準備・片付け	道具や企画物の準備
		道具などの片付け
就寝	就寝準備	翌日分着替え準備

■ Bクラス

「Bクラス」は、短期間の研修で習得可能な専門的知識・技術が必要となる業務です。Cクラスの作業で経験を積んだり、研修を受講した後にステップアップできます。また、介護や医療に関する経験（職歴や資格の保有など）がある方は、Cクラスの業務と並行してBクラスの業務を行うことになります。

表：Bクラスの業務内容

分類 (大項目)	分類 (中項目)	業務内容 (小項目)
起床	起床準備	水分補給の準備
食事	食事準備・片付け	自助具等配布
		配膳、配茶
		下膳
清掃	居室・共有部清掃	ベッドメイキング
入浴	入浴補助	水分補給の準備
レクリエーション	レクリエーションの 準備・進行	企画・準備
		進行・講師



■ Aクラス

「Aクラス」は、一定程度の専門的知識・技術・経験を要する比較的高度な業務です。Bクラスの作業で経験を積んだり、研修を受講した後にステップアップできます。

表：Aクラスの業務内容

分類 (大項目)	分類 (中項目)	業務内容 (小項目)
食事	食事準備・ 補佐	トロミ付け
		食堂移動の声掛け
		見守り
トイレ	トイレ時の補佐	トイレ移動の声掛け（布パンツの方への声掛け）
入浴	入浴時の補佐	浴室移動の声掛け
		見守り
		ドライヤーかけ
リハビリテーション	リハビリの補佐	物理療法（ホットパックなど）の補佐
		自主訓練の見守り
レクリエーション	レクリエーション の企画・進行・ 作業のサポート	趣味活動の補助
		企画
		移動時の声掛け
		進行・講師・サポート
その他	移動	車いす移動時の声掛け・見守り
		歩行時の声掛け・見守り
	その他	施設内での見守り
		コミュニケーション
		車での送迎



2-4-2 介護助手の1日の具体例

次に、前項で示したC～Aのクラス別の周辺業務を、1日の流れに当てはめてみます。
たとえば、Cクラスが担当になった方は、「介護助手の業務（クラス別）」のCの行にある「業務内容（小項目）」の内容が、担当する業務になります。

表：1日の流れ（例）

時間帯	分類 (大項目)	分類 (中項目)	業務内容 (小項目)	介護職員の 業務	介護助手の業務 (クラス別)
早朝	起床	起床準備	カーテン開け		C
			水分補給の準備		B
		トイレ	トイレ移動の声掛け		A
			トイレ介助	●	
	着替え	着替え・整容・義歯装着	●		
	食事	朝食	机上清掃		C
			エプロン・おしぼり配布		C
			食堂移動の声掛け		A
			配膳・配茶		B
			食事介助・食事量確認	●	
			見守り		A
			下膳		B
			食器等洗い・食堂清掃		C
			口腔ケア	●	
午前	清掃	居室・共有部清掃	換気・掃除		C
			トイレ清掃		C
			ゴミ捨て・物品補充		C
		居室清掃	シーツ交換		C
			ベッドメイキング		B / C
	洗濯	洗濯		C	
	リハビリ テーション	リハビリ テーション	施行・訓練	●	
			物理療法の補佐		A
			自主訓練の見守り		A
			物品片付け		C

上記の表では早朝と午前までのご紹介となりますが、午後の業務など、詳細な一日の流れについては、巻末付録の「業務チェックシート＜一日の流れ参考用＞を参照ください。

★介護助手の Point : 「できること」からはじめてみよう！

業務内容やクラスについては、この手引きで紹介したものと実際に就労する施設では異なることもあります。周辺業務の内容は、施設によって異なるためです。また、同じ業務内容でも、利用者によって対応が変わることがあるので、クラス分けの内容はあくまで参考としてください。

注意点として、「Aクラス」であっても、車いすから立ち上がる際に直接手を貸すなどの直接介護にあたる行為は、やむを得ない場合や緊急時、施設が認めた場合を除き、基本的には声掛けや見守りだけに留めるようにしてください。

しかし、必要以上に委縮する必要はありません。

どこまで業務を進めていいかなど、困ったことがあれば、介護職員とのコミュニケーションの中で指導を仰いでください。

また、介護職員も、みなさんに助けってもらうことや教えてもらうことはたくさんあります。

たとえば、見守りとして、利用者さんに気を配る存在が増えるだけで職員はとても助かります。ほかの業務ができるようになり、安心感の増加にもつながるからです。

また、レクリエーションの企画や趣味のサポートなどで、みなさんの得意なことや趣味などを教えてもらえると、施設内の活性化につながります。コミュニケーションについても、利用者と年齢の近い方が、興味関心が一致したり共通の話題もきっと多いでしょう。そういったことでも、みなさんの活躍が期待されます。

介護助手という仕事を通して、自分の生きがいを見つけたり、地域との交流を深めていってください。

